

かほだより

元-6号
R1(2019).8.22

長野県伊那家畜保健衛生所

〒396-0026 伊那市西町 5764

Te l : 0265-72-2782, Fax : 0265-72-2765

E-mail : inakachiku@pref.nagano.lg.jp

URL : <http://www.pref.nagano.lg.jp/inakachiku/>

伊那諏訪家畜畜産物衛生指導協会

Tel&Fax : 0265-76-8086

口蹄疫、あれから9年。病原体を持ち込まない、持ち出さない。

2010年に約30万頭の家畜が殺処分された宮崎県の口蹄疫から9年が経ちました。

当時は宮崎県から遠く離れた長野県でも生産者や関係機関の全員が危機意識を高く持ち、石灰散布や長靴消毒等、口蹄疫ウイルスの侵入防止に努めました。

昨年9月に国内で26年ぶりに発生した豚コレラは、現在も終息の兆しが見えていないのは周知のとおりです。先般、農林水産省の疫学調査チームから中間取りまとめが発表され、ウイルスは海外から侵入して野生イノシシへ感染し、人・物・車両・野生動物を介して農場へ運ばれた可能性が指摘されました。

感染症が成立するには①感染源(感染動物)②**伝播経路**③感受性宿主(牛、豚等)の3つの要因が必要で、感染症を成立させないためには3つのどれかを断つことです。

発生すれば農場や地域にとって大きな経済損失となる感染症は、口蹄疫や豚コレラのように殺処分となる「法定伝染病」だけではありません。近年では、管内でも**牛RSウイルス病**や**BVDMD**が複数の農場で発生しています。

病原体を農場へ持ち込まない、農場から持ち出さない。伝播経路を断つことが重要です。あれから9年、衛生意識は維持されていますか？

— 牛RSウイルス病が発生しました —

牛RSウイルス感染症は牛RSウイルスによる感染症で、主な症状は発熱と咳・鼻汁等の呼吸器症状です。

伝播速度が速く、**年齢・品種に関わらず感染し、年間を通じて発生**しますが、冬季に重症化する事例が目立ちます。多くは2週間程度で回復しますが、他の呼吸器病ウイルスや細菌の混合感染等により症状が悪化すると死亡することがあります。

管内では冬季から初夏にかけて、**搾乳牛の死亡事例**や、**子牛の集団発生事例**がありました。

適切にワクチンを接種し、予防しましょう。

— 全国でBVDMDが発生しています —

BVDMD(牛ウイルス性下痢・粘膜病)はBVDウイルスによる感染症です。

BVDVに感染しても多くは一過性の下痢や呼吸器症状を呈して回復しますが、粘膜病を発症すると致死率が高く、妊娠牛が感染した場合は胎齢により流産、異常産を起こす他、**持続感染牛(PI牛)**を娩出します。特にPI牛は粘膜病を発症するだけでなく、生涯BVDVを排出し続け**牛群の汚染源**となるため、大きな経済損失をもたらします。

近年は20以上の道府県で年間**300頭以上**の発生が続き(農林水産省集計)、全国的なまん延が危惧されています。**本県でも平成25年に10頭、26年に3頭**の発生がありました。

BVDVは知らずに自農場でまん延するおそれ、また、他農場へまん延させるおそれがあります。

— GO! 鹿児島全共!! —

2022年10月に鹿児島県で開催される**第12回全国和牛能力共進会**へ長野県代表として出品する牛の交配条件が示されました。

当地域は**県中央家畜市場上場頭数の約15%**を占め、当地域で生産された素牛が**第66回信州肉牛松本即売会**(7月6日開催)や**第40回信州和牛(長野県産)枝肉共励会**(7月30日開催、大阪市)で**最優秀賞**を受賞する等、素牛生産地として期待されています。

問い合わせ先：保健衛生課 [Tel:0265-72-2782](tel:0265-72-2782)

